【最優秀賞】

正真正銘の「ただいま」を。

泊村立泊中学校
２年　木村　柚稀

「ロシアは悪い国だ。」
北方領土視察に行くまでこの言葉に疑問を感じることはありませんでした。それどころか、旅行に行く前の下調べで、ウクライナ情勢による日ロ関係の悪化によって、コンブ漁をしている船に対し、ロシアの国境警備局がチェックを強化しているというニュースを見たときは、北方領土は日本固有の領土だから、ロシアのせいで仕事を奪われたり、他国に怯えながら漁業をするのは筋違いなはずだ。と、ロシアに腹が立ちました。

しかし、私はあることがきっかけでこの考えに疑問を感じるようになり、「共存」の選択肢も考えるようになりました。そのきっかけとなったのは元島民の古林さんのお話です。古林さんはロシアが日ソ中立条約を一方的に破棄し、日本に侵略を始めてから約三年間日本人とロシア人が一緒に暮らしていた時期にソ連の人たちから甘いものをもらったり、遊んでもらったりしたことがあると話していました。そのため、ソ連の人たちは子どもたちに対し優しく、親切だったという印象が強いそうです。古林さんは「ロシアについてどう思いますか？」という質問に対し、こう答えました。
「ロシア兵を憎む気持ちはない。むしろ、やってもらったことに感謝している。」「みなさんはどうか故郷を大事にしてください。」

元島民の方はロシアに対し強い怒りと憎しみを持っているのだろうと確信していた私は、予想を裏切られとても驚きました。それから、至る所にある「北方領土を返せ！」という看板を見る度、古林さんのお話とのすれ違いに違和感を覚えました。国民の意見がバラバラなままだと、話し合いの方向性がうまく定まらないのではないか。そう思ったのです。

様々な意見があり、とても難しい問題ですが、私は古林さんのお話を聞いて「共存」という方向性で話し合いを進めるのがよいのではないかと思いました。そのために、自分なりに考えた二つの案があります。

一つ目は、平均年齢が八十六歳を超えている元島民の方に代わり、授業や作文、北方領土視察などを通じて私たちの世代に、北方領土に関心を持ってもらう機会を与えるということです。

二つ目は、日ロ関係を良好に保つことです。話し合いが中止されてしまっては、共存は叶わなくなってしまいます。日ロ関係を良好に保つことに加えて、ロシアの豊富な資源と日本の高度な技術をうまく活用することで、交渉を円滑に進められたらより良いのではないかと思います。

北方領土問題解決に向けて今、私たちにできること。それは、行動することです。行動といえば少し難しく感じられるかもしれませんが、ニュースを見て北方領土について考えることや、その考えを誰かに話すことだって北方領土問題解決に向けて行動しているといえます。小さな行動でも、日本中が一丸となることで、北方領土問題を解決できるほどの大きな力になると思います。この国には戦争をせず話し合いで解決できる素晴らしい力があります。私はこの問題を話し合いで解決して、今戦争をしているすべての国に戦争で故郷を汚すことなく問題を解決することができるということを示したいです。

「みなさんはどうか故郷を大事にしてください」

その言葉を胸に。正真正銘の「ただいま」をするために。